猛烈台風から２か月目のフィリピンサマール島とレイテ島

皆様には、11 月にフィリピンに大変大きな被害をもたらした猛烈台風ヨランダの被災者にお心にかけていただき、心より感謝しております。

猛烈台風ヨランダから２か月後の 2014 年１月５日から 10 日かけて、サマール北部、そして最も被害の大きかったレイテ島のタクロバンを経由して陸路オルモックまで行ってきました。今回のサマール島とレイテ島の訪問は、その後の被災地の様子と義捐金の使われ方の視察及び復興活動の計画を立てることが目的でした。

サマール北部は、台風の直撃を免れたために他の被災地に比べると、被害がある程度少なく、少しずつではありますが、人々の生活が元に戻りつつあります。場所によっては電気も戻ってきています。サマール北部の聖心会の Sacred Heart Institute for Transformative Education (SHIFT)のソフィース・ファームでも風で飛ばされた屋根も徐々に修理が進んできています。大きなダメージを受けたレタスやトマトを作っているビニール・ハウスも新しく作られ始めています。

また、台風被害者義捐金で支援したSPPIというサマール北部の自立支援をしているNGOのプロジェクトも視察してきました。この NGO は低所得層の人々の収入を増やすために、彼らにある程度の資本提供と海藻を育てるための技術指導をし、それらを輸出業者に卸す助けをしています。サマール北部にある小さな島、サン・アントニオ島では、このNGOの支援で、台風で流されてしまった海藻の若い芽をミンダナオ島で年末に購入し、その植え付けも始まっていました。小さな資本で、大きな経済の枠に入りながら、それなりの収入を得られる仕事の提供は、現金収入の少ない、また特定の技術を持たない人々にとって、非常に良い副収入を得る機会だと思いました。この他にも台風の大きな被害を受け、家や職を失ったサマール東部やレイテ島からの移民が故郷に戻って生活するために住居を提供すること、収入を得る道を探り、新たなスタートを支援することも大きな課題です。

大きな災害によってトラウマを体験した人たち・子どもたちの癒しのプロセスの助けるためのSHIFT主催の第1回目のトラウマ・カウンセリングのセミナーが、1月13日から15日にかけてソフィース・ファームで開催されました。第1回目のセミナーにはサマール島とレイテ島の被災地から教会と教育機関を通して送られてきた100名を超える人々が参加しました。第2回目はサマール北部の参加者に限定して開かれる予定です。このセミナーは今回の台風被災者の癒しのプロセスの支援のためだけではなく、近い将来再び予想される大きな自然災害の被災者支援も眼中に入れての支援です。

サマール北部に３日間滞在してから、11 時間半かけてオルモックに向かいました。途中、車窓から、また世界中にその荒廃した様子が報道された最も被害の大きかったレイテ島のタクロバンやパロなどで車を乗り継ぐ時、被災地の被害の大きさを目の当たりにしました。サマール西南部のカトバローガンでは、小規模のカトリック学校に立ち寄って、校長先生から

ご自身が実際に訪ねられたサマール東部のいくつかの私立学校の様子を伺いました。貧しい地域の小規模な私立学校では半壊、もしくは全壊した校舎や設備をどこからどのように手をつけて直したらよいかの目途も立っていないとのお話に、心が痛みました。公立学校には多少なりとも国や国際機関からの支援がありますが、同様に貧しい子供たちの教育に当たっている小規模な私立学校にはそうした支援がないため、どのような支援をすべきか、聖心会のシスターでサマール北部の貧しいカトリック学校の校長をしているシスターと支援の道を探そうという話をしました。彼女は現在東部ビサヤ私立学校連盟の会長も務めています。何100ｋｍかの田舎道を数時間かかけて乗合自動車で走る中、葉のもぎ取られてしまったヤシの木や、屋根の剥がされてしまった家屋、教会、学校が次々と目に入ってきました。もうそろそろ食料配布などの緊急支援は終わりかなと思っていましたが、まだまだフィリピンの政府や民間団体、またユニセフやOxfamをはじめとした国際団体の大きなテントから食料や日用品の入った袋をぶら下げて出てくる被災者たちを見かけました。タクロバンの町の中は、建物の廃材や沢山のゴミがいまだに山積みにされていました。多くの店舗にはまだシャッターが下ろされていました。ちょっと電気が見えたので、もう電気が復旧しているのかと思いきや、町の中を歩いていたら、自家発電機のゴーゴーという音が響いていました。タクロバンからオルモックに向けては、またもや台風かと思うほどの強い風と大雨の中、乗客10人ほどの中乗合自動車で２時間半ほど走りました。公立学校は１月６日から週３日で始まっているはずでしたが、通り道にあった学校全ての校舎の屋根はほとんど剥がれていました。公立学校の校庭にはユニセフの大きな白いテントがいくつも張られているのが目につきました。

聖心会のオルモックにあるSt. Philippine Duchesne Ormoc's Workers Foundation, Inc. (SPDOWFI)のセンターは、台風１週間後の訪問時には、ほぼすべての梁が飛ばされ、ほとんど屋根のない状態でしたが、建物の一部には仮の新しいトタン屋根や雨を凌ぐためのビニールが張られていました。幼稚園の建物は全く屋根が無くなったままの状態でしたが、少なくとも屋根の骨組みにはビニールが張られ、剥がれてぶら下がっていた天井の板や、剥がれた床のビニールタイル、床に散らばった教具や壊れた家具はある程度取り除かれ、水浸しだった床はほぼ乾いていました。幼稚園の園庭の屋根や遊具はまだ壊れたままでした。屋根の無くなっていたスタッフハウスの屋根も取り付け作業が行われていました。また、庭に倒れた大木は取り除かれていました。コミュニティ内の８世帯の家はまだ壊れたままで、雨風をしのぐために建材の支援が必要です。幼稚園の子どもたちの一部は両親が職を失ったり、家が住める状態ではないため、一時的に他の土地の親戚の家に避難しています。ですから、幼稚園のクラスが始まったとはいえ、今のところ、まだ子供の数も少なく、今まで通りのクラスを始めるにはまだ数か月かかりそうです。現時点では、質の良い建材がなかなか手に入らないため、また大工さんたちの需要が非常に多いため、建物の修理がなかなか進まないのが現状です。SPDOWFIの理事会では、本格的な建物の大修理を始めるために、修理を請け負ってくれるエンジニアと修理計画について話をしました。

これまでに聖心会にお託し頂いた台風被災者義捐金は、下記の用途に使わせていただいています。また、これからも以下の復興支援のために資金が必要です。

- 食料緊急支援
- ソフィース・ファームの修理及びSPDOWFIの貧しい人々・子どもたちのための教育使徒職の施設の修理及び教育備品・教材の購入
- 聖心会会員の家族・親戚及び聖心会使徒職で関わりのある貧しい人たちの住居修理
- トラウマ・カウンセリング・セミナー
- 生活の手段を失った人々の生計を立て始めるための資金援助
- サマール島とレイテ島の小規模私立学校の再建支援

少しずつ復興活動が始まってはいますが、サマール島とレイテ島は１月から３月ごろまでは雨季で、低気圧が停滞していて、相当量の雨が降るため、人々の生活にはとても厳しいものがあります。長い陸路の旅で、道路沿いの葉をむしり取られた木々を見ながら、自然の大きな破壊力の恐ろしさを感じるとともに、同じ自然の持つ新しい生命を生み出す強い力も感じました。今回の台風の後、世界各国から沢山の方たちの祈りとご支援を受けました。まだこれからの長い復興の道のり、多くの方々の善意による協力が必要かと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

聖心会フィリピン地区
有田由佳

SHIFTの屋根の壊れたスタッフ・ハウス

ソフィース・ファーム　ビニール・ハウス

サン・アントニオ島　生計を立てるための海藻プロジェクト支援

トタン板のついたSPDOWFIセンター

屋根にビニールの張られたSPDOWFIの幼稚園

SPDOWFI幼稚園の子どもたちの遊び場

トタン屋根の取り付けられているスタッフハウス

SPDOWFI幼稚園の修理計画の会議

SPDOWFIコミュニティ内の台風で壊れた家